

多様な考えに触れ、 道徳的価値を自分のこととして考えられる児童の育成

～自分の考えをはっきりさせ、広げ見つめるための
道徳ノートの活用や話し合いを通して～

特別研修員 道徳 武井幸子(小学校教諭)

児童の実態 書いて発表することが中心になってしまう。
自分中心に考えてしまい、自分と違う考えを認められない。

手立て 道徳ノート活用
聞かせてワードと話し合い

実践例

主題名 相手を思いやり親切に B - (6)親切、思いやり
資料名 「心と心のあく手」

中心発問

ぼくは、そっとおばあさんの後ろをついて行くことを選んだが、自分だったらこの後どうだと思いますか。

聞かせてワード「なぜ」「どうして」を使って理由も書く。

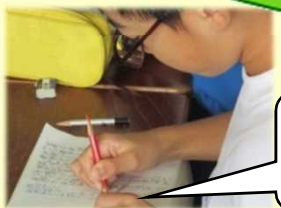
自分の考えが
はっきりする



声をかけたいけれどかけない。なぜなら、一生懸命歩く練習をしているから。

青色鉛筆を使って、話し合いで気付いたことや友達の良い考えを加筆する。

自分の考えを
見つめる



この場面の「手伝う」の意味は、「見守る」ということだと思った。

道徳ノート
活用Ⅰ

話し合い

道徳ノート
活用Ⅱ

道徳ノート
活用Ⅲ

聞かせてワード「なぜ」「どうして」「どう思う」「どうすれば」を使って質問する。

多様な考えに触れさせ、
考えが広がる

ぼくはおばあさんの後ろをついて行く。

私はおばあさんに声をかける。

なぜなら、がんばっているおばあさんの邪魔をしたくないから。

どうして、声をかけないでついて行くの。

なるほど。そういう考えもあるのか。

今までの自分と授業の中で考えたことを比較し、振り返りを書く。

自分のこととして
考える

相手のことを思って、どうしたらいいかを考えていきたい。

多様な考えに触れ、道徳的価値を自分のこととして考えられる児童

成果

聞かせてワードを使って、自分の考えの根拠を明確にして道徳ノートに書かせたことで、一人一人が自信を持って話し合うことができた。
話し合いでは、聞かせてワードを使って質問し合うことで、より多様な考えに触れ、考えを広げることができた。
道徳ノートに青色鉛筆で加筆することは、最初の考えと比較でき、自分の考えをしっかりと見つめるために有効であった。
一連の活動(道徳ノート活用Ⅰと話し合い)を行ったため、最後の振り返り(道徳ノート活用Ⅲ)で、道徳的価値を自分のこととして考えることができた。

課題

聞かせてワードは、話し合いを活発にするためには有効だが、話し合わせたい内容によって提示する言葉を選択する必要がある。
道徳ノート活用Ⅱの加筆(青色鉛筆)では、多様な考えを基にし、自分の考えを短い時間で見つめられるようにするため、加筆の方法を検討する必要がある。